

# はじまりの灯

明治から昭和初期にかけての建物が多く残る津島町岩松地区。かつては物資の集散地として栄え、旅館や商家などが連なりにぎわいを見せていました。しかし、交通網の発達などにより町は次第に衰退していきました。そんな中、風情ある町並みを守っていきたく、平成16年から町並み保存活動が始まりました。

それからおよそ20年たった昨年12月、目標としていた重要伝統的建造物群保存地区に選定されました。県内では内子町、西予市に続いて3例目となり、大きな前進といえるでしょう。

ですが、これがゴールではありません。むしろここからスタートです。これからどう生かし、つないでいくか。今を生きる私たちが、町並み保存の灯をともし続けなければなりません。



重要伝統的建造物群保存地区とは文化財保護法に基づき市町村が決定した伝統的建造物群保存地区の中で、国にとって特に価値が高いと判断されたもの

# 岩松が重要伝統的建造物群保存地区に選定

岩松は、14世紀中頃には既に農村として存在したと考えられ、室町後期に、岩松川河口の東側にそびえる天が森に越智通繁が居城を築き、岩松の集落はその麓に形成されたとみられています。1614（慶長19）年以降は宇和島伊達家が治める宇和島藩領となりますが、1684（貞享元）年、豪商小西家初代が岩松村に移り住んだことを契機に次第に町場が発展し、江戸後期から近代にかけて豪商を中心として製蠟業や新田・塩田開発、酒造業などで繁栄し、周囲の集落の物資の集積地として栄えました。現在の町割は昭和初期頃に成り立ちました。

保存地区は、天が森と岩松川に囲まれた岩松川左岸の範囲です。地区内には、狭隘な敷地に江戸末期から昭和40年代初期までに建てられた伝統的な町家をはじめとして、谷筋の農家住宅、寺社、近代の洋風意匠を取り入れた店舗や医院、また近世の地割を残す芳原溝などの水路を形成する石垣が一体となって歴史的風致を形成しま

す。主屋は2階建、切妻造平入の棧瓦葺で、正面の庇を絵様彫刻などで飾った持ち送りで支え、格子を建てて、2階の開口部には手摺を設けるものが多くあります。2階は全体を座敷として、明治中期頃に改造されたものは登梁に沿って傾斜した棹縁天井を張る特徴がみられます。

「宇和島市津島町岩松伝統的建造物群保存地区」は、農村から津島郷の物資集散地への変容とともに町並みが形成され、江戸後期から近代にかけて商業を基軸に発展を遂げた在郷町です。天が森と岩松川に囲まれた狭隘な敷地に、江戸末期から昭和40年代にかけて建てられた切妻造平入の町家に加え、土蔵や離れ、農家住宅、近世の地割を残す芳原溝などの水路を形成する石垣などの伝統的建造物が残ります。これらの伝統的建造物群が、リアス海岸に注ぐ河川および周囲の急峻な山林と一体となって歴史的風致を良く伝えています。

（文化庁報道発表参照）



# 未来につなげるスタートライン

今こそ未来を見据え、これからのことをしっかりと考える時！。  
専門的視点からの岩松の魅力とこれから、地元保存会が考える未来、  
岩松にとまろうとしている新たな情熱の灯を紹介します。

## 再び「てんやわんや」な町並みを

工学院大学 理事長 後藤 治 教授



「や」の主人公が身を寄せた「長者」の家のモデルとなったのが、小西家の本家です。

現在、岩松川は町並みの正面に流れています。現在の流れになったのは、江戸時代末期から明治初年にかけて行われた河川改修の結果です。それまでの岩松川は、

### 二つの顔を持つ町並み

岩松の商業発展の中心的な役割を果たしたのが、小西家です。現在、本家は他の場所に移住し、その建物、敷地ともに多くが失われていますが、川沿いに残る座敷と蔵にその面影をとどめています。獅子文六による小説「てんやわん

集落を離れて蛇行するような形の流れで、その様子は領主の宇和島伊達家に残された往時の絵図に描かれています。小西家の本家に残る史料によれば、その目的は新田開発とされています。町域を広げて川港を南に移し、河川の舟運を利用して商業の拡大と発展を狙ったことが、実際の第一の目的ではなかったかと思われれます。

岩松川に沿った通りから少し入った中心街を南北に通る道が、地区のメインストリートです。そこには、通りに沿って両側に旧西村酒造をはじめ伝統的な町家などの伝統的建造物が並びます。伝統的建造物以外にもいくつかの商店があり、往時は商店街として相当にぎわっていたであろうことが想像できます。岩松の町並みの最大の特徴は、川沿いとメインストリート沿いという二つの顔を持っていることです。

### 岩松ならではの2階座敷

いくつかの明治期の町家の2階の座敷に作られた天井の意匠があります。それらの天井は、屋根の流れに合わせた傾斜を持ち、曲面を描く形です(曲面傾斜天井)。曲面傾斜天井は、他の地域の町家でも時折見られる形式です。こ





の形式の天井は通常そのほとんどが、元来は部屋として利用しない高さの低い2階に後に部屋が必要になって、部屋の高さを少しでも確保するために小屋梁の曲がりに合わせて天井を作り、結果として曲面傾斜天井の姿となった形です。ところが岩松では通例の改造の結果とは異なり、建設当初から意匠として曲面傾斜天井を作っている点に特徴があります。

山と川に挟まれた岩松では奥行き方向の敷地に限界があったため、主な座敷や隠居用の座敷を1階ではなく2階に設ける必要性が比較的前く生じたものと考えられます。その結果、本来は改造の結果である曲面傾斜天井が、1階と2階の座敷の意匠を区別するための特別な設えとして採用されたのではないかと考えられます。2階から眺める岩松川の美しい景色も一因となったのかもしれない。



## 再び地域の中核として

このたびの重要伝統的建造物群保存地区の選定によって、観光客の来訪をはじめ地域の交流人口の増加が見込まれるはずです。それを契機に周辺の農村、漁村集落への窓口、中継機能を持つなど、再び地域の中核としての岩松の役割を見直し、それに個性的な人々の力を加えて、再び「てんやわんや」に書かれた都会とは異なる別天地としての岩松の元氣と魅力を取り戻していつてもらいたいです。願わくば「リメイク版てんやわんや」も期待しています。



## 次の世代につなげられるように

岩松守ろう会 西崎 徹 会長



岩松では、15年以上前から重要伝統的建造物群保存地区（重伝建地区）の選定を目指し町並み保存活動に取り組んでいきましたが、さらなる活動の発展のため平成30年7月に「岩松守ろう会」が立ち上がりました。団体名は岩松小学校の生徒から案を募り決定し

ました。当初は豪雨災害やコロナ禍でなかなか思うような活動ができませんでしたが、ワールド・モニユメント財団の支援により小西本家（色ガラスの家）の改修を行うことができ、重伝建地区選定への大きな一歩となりました。しかし、今回の選定がどういう意味を持つのかよく分かっていない人も多いと思います。これからも市をはじめとした関係各所と連携しながら、若い世代が興味を持って町並み保存に取り組んでくれるように、自分たちにできることをやっていきたいと思っています。



# 楽しみながら、調和していく

松岡あやさん（左）、山口七星さん（右）



松山市出身で現在は市内で看護師として働いている松岡さんは、母と子のエンジョイコミュニティ「hahatoco」の代表も務めています。2009年から活動している同団体は、親子が楽しめる場所が市内にあまりないことから、知り合い数人でのフリーマーケットなどからスタートしました。地元での交流のきっかけになればと以前の勤務先の介護施設でイベントを行ったときは、子どもたちとお年寄りが寄り添い楽しんでいるのを見て、理想の交流の形を感じたそうです。その後も

公民館やカフェの一角、公園などで、アロマやカラセラピーなどのワークショップ、お話し会、ライブイベントなどを行ってきました。忙しいママたちにはっと一息ついてもらえればと夜の商店街でお酒が飲めるイベントや映画会も行いました。災害のときには仲間とお弁当を作って配達したり、キャンドルナイトイベントを行ったりもしました。マイペースで活動を続け、つながりが広がる中で岩松が町並み保存に取り組んでいくことを知ったそうです。

岩松出身の山口さんは、市外へ進学後ホテルや客船でバーテンダーとして働いた後、地元に戻ってきました。その後市内で働きながら生活する中で体調を崩してしまったことをきっかけに、自身の体や心の健康について考えるようになりました。その一環で発酵について学んでいるときに地元でどぶろくや甘酒を造っていることを知り、製造者の企業組合いわまつに話を聞く中で町並み保存に関心を持ち始めたそうです。

2人は共通の知り合いが主催するお話し会などで顔を合わせるようになり、話をする中で意気投合したそうです。松岡さんいわく2人は熱意のレベルが一緒だそうで、自分たちができることから昨年5月に岩松地区の古民家で地元の人々の協力を得てイベントを行った時は、地元内外の多世代の人たちが訪れました。また市外の人にも岩松のを知ってもらえればと、10月のでんやわんや市オープンイベントも手伝いました。さらに12月には旧阿部邸でクリスマスイベントを行い、親子での来場も多くにぎわいました。今後はこの旧阿部邸を、サロンなどのシェアスペースも兼ねながら、地元の人たちも気軽に立ち寄ってもらえる交流拠点にしたいそうです。また遍路などでインパクトが増えていることもあり、しらうお漁やみそ造りなど岩松ならではの体験イベントを行ったり、着物をレンタルして街歩き体験なども行いたいといいます。

「そのためには見合う町並みにしていくことが重要。自分たちが楽しみながらも、地元との調和を大切に企画したい」とまちづくりへの情熱を燃やし続けます。





# これからの、 みんなで照らす

ついに重要伝統的建造物群保存地区となった岩松。町並み保存はここからが本当のスタートです。住んでいる人だけでなく、市内外さまざまな人が関わりながら、これをきっかけに生まれたはじまりの灯をみんなですり、育て、未来が明るく照らされ続けることを願います。